児童発達支援における自己評価結果（公表）

公表：2022年　4月　4日　　事業所名　　鳥取県立総合療育センターのびっこワールド

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・コロナ禍のため、利用人数に対して余裕をもったスペースで実施している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		・今の配置数で活動できるように工夫をしている。	・あそび中心の療育を大切にしているので安定した保育士の人数を確保できるように取り組んでいる。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・視覚的刺激になるものを隠すようにしたり、子どもの様子に合わせて使用する部屋を選んでいる。 ・すべてバリアフリーとなっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・毎日、活動前に掃除を行っている。 ・活動や利用児に合わせておもちゃや遊具を変えている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		・毎日の活動前後に全スタッフが参加し、活動の設定と振り返りを行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・評価実施している。可能な内容については、業務改善している。 ・評価表だけでなく、普段から意向を聞き取り、可能なことは対応している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・3月中にホームページで公開予定となっている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		・第三者評価を受けている。評価結果は回覧して確認している。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・外部研修の案内があり、スタッフ間で声を掛け合って参加している。オンライン研修なども活用している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・評価ツールを使っての客観的な分析を行い、多職種からの多角的な視点での検討を行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・個別支援計画作成前に評価を行っている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・課題整理表で各分野についての現状や課題を確認し、目標と支援内容を検討している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・計画や子どもの発達段階に合わせた活動内容を立てている。 ・子どもの発達を常に評価し、成長に合わせてプランを変更することもある。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・全スタッフでのミーティングを毎日行い、活動内容を検討している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・毎日、毎回、利用児に合わせてプログラムを変更したり、あえて同じプログラムを実施している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			・感染症対策のため、個別活動と集団活動を切り替えながら事業継続を行った。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・当日の朝に全スタッフで打ち合わせを行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・打ち合わせの時間を十分にとり、活動の振り返りを行い、次回の課題も見つけている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・振り返りの際に共有したことについて記録を残し、次回の活動の際に参考にしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・親子通園なので、毎回細やかなモニタリングができる。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・保育園とは連携を密にやっている。	・就園先以外の機関とも個別支援会議や電話などで情報交換を行っている。
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				・該当者なし。
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				・該当者なし。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・保護者にサポートブックを作ってもらう支援をすることで情報共有したり、見学や園訪問など密に連携をとっている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			・必要に応じて情報提供している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・特定の事業所ではあるが、支援の方法などについて直接情報交換することがある。	・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら他の児童発達支援事業所との情報交換会も検討していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある				・コロナ禍のため交流の機会がなかった。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している				・コロナ禍のため開催が自粛されている。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・日頃からコミュニケーションを大事にしており、活動中に情報交換を行っている。また、ノートを利用しての情報共有を行っている。	・すべての保護者に対して相談の機会を均等に設けたい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		・集団でのペアトレだけでなく、必要時は個別での保護者支援を実施している。 ・のびっこ利用児に合わせた内容に変更したプログラムを毎年行っている。	・スタッフ全体の技術向上のため、ペアレントトレーニングの研修受講、日々の活動での実践と振り返りを行っている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・説明は入園時、制度変更時に行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・半年に一度支援計画を立て、保護者に説明して同意のサインをもらっている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・定期的に相談の場を設けているわけではなく、必要に応じて随時行っている。	・すべての保護者に対して相談の機会を均等に設けたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・パパ会、ママ会、勉強会など保護者同士の交流の場を設けている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・第三者委員のアナウンスを契約時に行っている。 ・トラブルがあった時には、すぐに上司に報告し一緒に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月のびっこだよりを作成し、行事予定や連絡事項を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・半年ごとにホームページ等写真掲載可否のアンケートをとり、ホームページ更新時など個人情報の取り扱いには注意をしている。	・ホームページ公開前に内容や写真に不備がないか多数の目で確認をしている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・子どもの小さな表出を代弁したり、伝わりやすい表現方法を保護者に具体的に伝えている。（タブレット、ビッグマックスイッチなど）	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている				・コロナ禍のため現在は自粛している。時期を見て再開を検討する。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・毎月訓練を実施している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・利用児、保護者と一緒に毎月避難訓練を実施している。 ・実際の災害を想定し、必要物品を持って2階まで避難するなど具体的な訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			・半年ごとに実施しているアンケートに服薬などの状況が確認できるような項目を追加する。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・アレルギーのある子は現在いないが、給食開始前に確認を行っている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・医療安全委員会の事例を共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・センター内の研修を受講している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・契約時や個別支援会議の時に説明し、同意を得ている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。